

令和5年度

金ヶ崎町立金ヶ崎中学校の様子

1 学級数

学 年	1 学年	2 学年	3 学年	特別支援	合 計
学級数	4	4	4	4	16

2 生徒数

学 年	男	女	計
1 学年	65	53	118
2 学年	72	54	126
3 学年	61	69	130
計	198	176	374

3 教職員数

職名	人数	職名	人数	職名	人数	職名	人数	職名	人数
校長	1	教諭	24	講師	1	臨時用務員	1	ELT	2
副校長	1	養護教諭	1	非常勤講師	2	特別支援員	3	SC	1
主幹教諭	1	主任主査	1	用務員	1	適応支援員	2	SSW	1

非常勤（含；町費英語指導1）

活動支援員（含；緊急スクールサポートスタッフ1）

4 生活時程（6時間時程）

	時 間		時 間
生徒登校	8:20	休 憩	13:10 ~ 13:30
朝読書	8:20 ~ 8:30	5校時	13:35 ~ 14:25
朝短活	8:30 ~ 8:40	6校時	14:35 ~ 15:25
1校時	8:50 ~ 9:40	清 掃	15:25 ~ 15:40
2校時	9:50 ~ 10:40	帰短活	15:40 ~ 16:00
3校時	10:50 ~ 11:40	課外活動	16:05 ~ 16:50
4校時	11:50 ~ 12:40	生徒下校(S・B)	16:55 (17:00)
給 食	12:40 ~ 13:10		

5 進路状況

進路状況（人数）		令和2年度	令和3年度	令和4年度
進 学	公立高校	104	119	104
	私立高校	32	26	35
	特別支援学校	1	2	1
	高等専門学校	2	6	2
	小 計	139	153	142
就 職 等		2	0	1
合 計		137	139	143

6 校内研究

(1) 研究主題「課題解決力を育てる学習指導のあり方」

～「見通し」と「振り返り」活動の充実を目指して～

(2) 主題設定の理由

教科一般において、1単位時間（教科によっては単元、章などの学習のまとめ）において「見通し」と「振り返り」指導過程を実施すること、また、家庭での学習についても「見通し」と「振り返り」学習ができるよう指導することによって、課題解決力を高め、主体的に学習する生徒を育成できるであろうと考え、本主題を設定した。

(3) 研究の概要

本校は昨年度まで、「わかる」から「できる」授業づくりの実践を通じて学びの意欲を高め、課題解決力を向上させる研究に取り組んできた。本校生徒の実態は、概ね落ち着いた態度で学習に臨んでいるものの、基礎的・基本的な知識や技能を活用し、課題解決へとつなげていくことが苦手な生徒が多い。令和4年度の県学習定着度状況調査によると「授業がわかる」と肯定的な回答をした生徒の割合は約8割であり、1月下旬に行った学習アンケートの「学校の授業で学習していることがよく分かります」について「あてはまる」が31%、「どちらかというにあてはまる」が58%であった。しかし、県の平均正答率に達していない問題もあり、「わかる」から「できる」授業実践を進めることが大切となっている。

昨年度まで、「見通し→学習活動→振り返り」という構成で授業実践し、家庭学習でも取り組むことを校内研究会および一人一授業公開を通して進めてきた。今年度も継続し、「見通しと振り返り」を重点とした授業実践と家庭学習、さらに、一人一台端末等のICT機器を活用しながら、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実が図られるように努めていく。